



TURBOSYSTEMS

## 4K UHD XJive Player XThink オプション 操作説明書

2016/03/07

ターボシステムズ株式会社

## 変更履歴

変更日	変更内容
2015/10/16	初版
2016/01/21	スレーブの電源を 30 秒以内に投入の注記を削除しました
2016/03/07	モデルチェンジによる更新 (OTH070,OTH071,OTH072)

# 目次

1. はじめに.....	4
1.1. XThink 概要.....	4
1.2. XThink 基本構成.....	5
2. XThink の設定.....	6
2.1. MASTER 設定.....	6
2.2. SLAVE 設定.....	9
2.3. XThink 起動.....	10
3. コンテンツ再生.....	11

## 1. はじめに

本手順書は、「4K UHD XJive Player XThink オプション」の操作方法について説明しています。

最新情報は製品のウェブページをご覧ください。

### 4K UHD XJive Player

<http://www.turbosystems.co.jp/xjive.html>

### XThink

<http://www.turbosystems.co.jp/xjive/xjive-xthink.html>

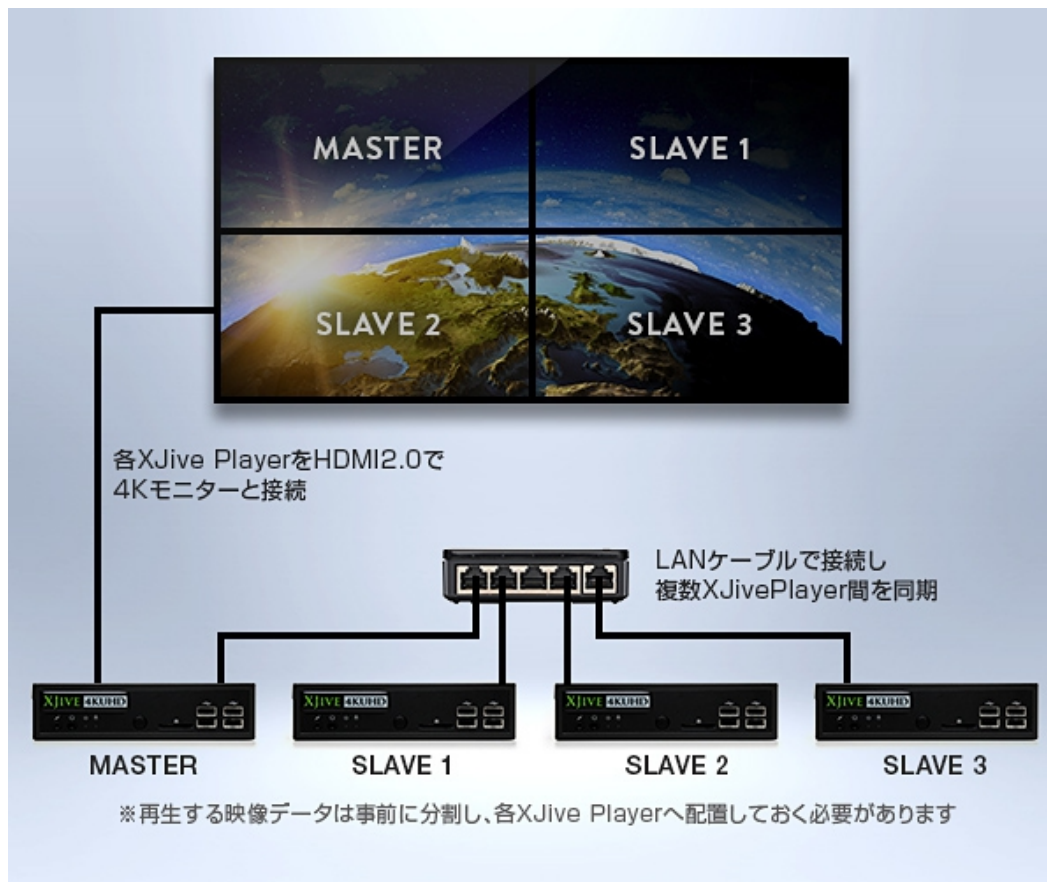
## 1.1. XThink 概要

「XThink」は、4K コンテンツ再生プレイヤー「4K UHD XJive (エックスジャイブ)」シリーズのオプション機能です。複数の XJive Player の完全なフレーム同期再生を実現しており、複数モニターの映像をつなげた1つの映像であるかのように再生することができます。

例えば、XJive Player 4 台を「XThink」で接続すれば 8K の映像データを 4 面マルチディスプレイで再生することが可能になります。

また、同期可能なプレーヤ台数に制限はありませんので数十台の XJive Player を同期再生することも可能です。

## 1.2. XThink 基本構成



上図は「XThink」の環境を4台のXJive Playerで構築した例です。

「XThink」は、MASTERとなる1台のXJive Playerと、SLAVEとなる複数のXJivePlayerで構成されます。各XJive PlayerをLANケーブルでハブと接続してください。

また、各XJivePlayerとモニタをHDMI High Speedケーブルで接続します。



LANポート

**LANケーブルは背面左側のポートへ接続してください。右側のポートは利用できません。**

## 2. XThink の設定

ここでは、「XThink」の構成手順について説明をしています。

はじめに MASTER とする XJive Player の設定を行い、次に SLAVE の設定を行います。

また、各 XJive Player には IP アドレスを設定する必要があります。あらかじめ各プレーヤの「Setting」メニューで固定 IP アドレスを設定してください。あるいは、MASTER の XJive Player で DHCP サーバを有効に設定すれば、SLAVE は MASTER の DHCP サーバ経由で IP アドレスを取得することができます。

### 2.1. MASTER 設定

MASTER に設定する XJive Player の電源を入れます。XJive Player のメイン画面が表示されます。

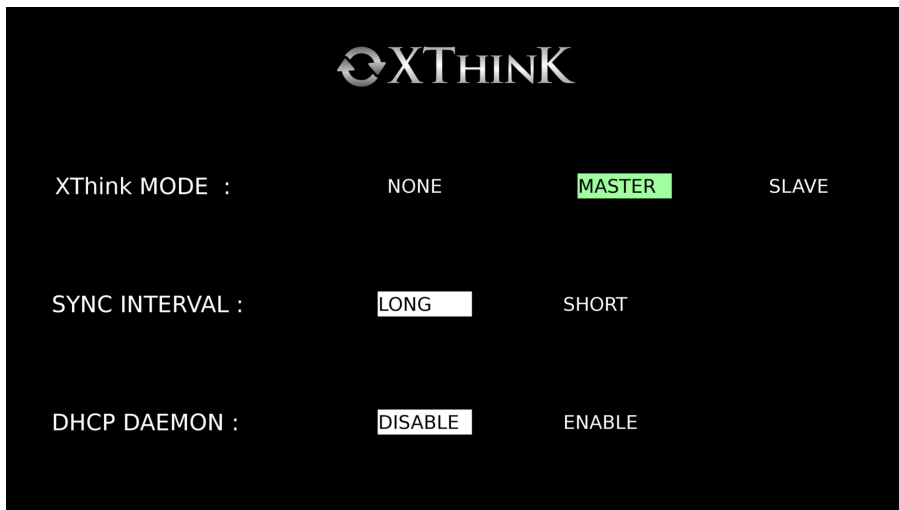
「F1」キーを押します。パスワードの入力を要求されます。



パスワードを入力し、「Enter」キーを押します。



初期設定のパスワードは「1234」に設定されています。



各設定項目は以下のとおりです。

項目	値	説明
TIMELOCK MODE:	NONE	「XThink」オプション機能を無効にします。通常の 4K UHD XJivePlayer として動作します。
	MASTER	この XJive Player を「XThink」の MASTER に設定します。
	SLAVE	この XJive Player を「XThink」の SLAVE に設定します。
SYNC INTERVAL	LONG	通常は LONG を選択します。 同期に 4msec を超える誤差を検出すると補正を行います。
	SHORT	LONG より短い間隔で同期補正を行います。 LONG では正常に同期再生されないモニタの場合にお試しください。 ※ シャープ製 8K 映像モニター <LV-85001> は「SHORT」を選択します。
DHCP DAEMON:	DISABLE	MASTER を選択した場合に指定可能です。 DHCP サーバを停止します。
	ENABLE	MASTER を選択した場合に指定可能です。 DHCP サーバを起動します。 MASTER の IP アドレスは、 <b>192.168.55.1</b> に設定されます。



**既に DHCP サーバが起動している LAN 上で XThink の DHCP サーバを起動しないように注意してください。**

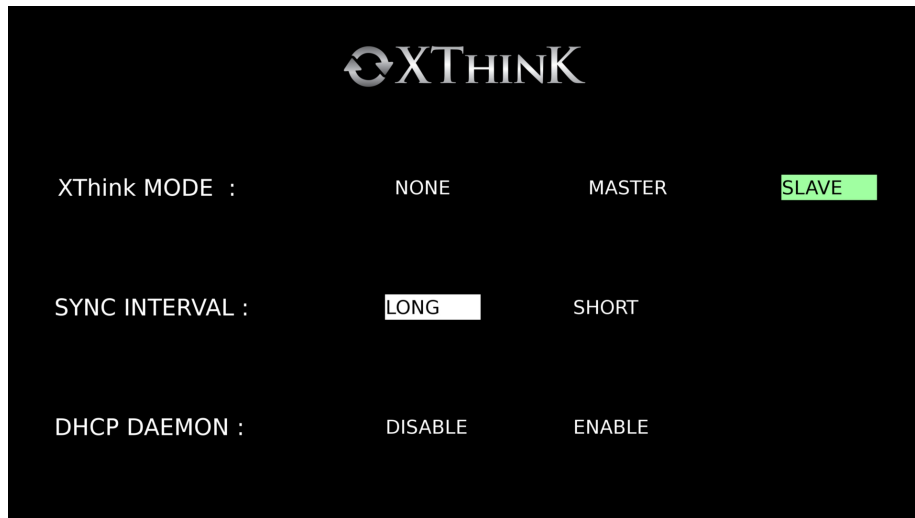
項目間はカーソルキーで移動できます。

1. 「TIMELOCK MODE:」の「MASTER」にカーソルをあわせませす。
2. 「MASTER」でDHCP サーバを起動する場合は、「DHCP DAEMON:」の「ENABLE」にカーソルをあわせませす。
3. 「Backspace」キーを押すと、設定が保存され、メイン画面へ戻ります。
4. **設定の変更を反映するにはプレーヤの再起動が必要です。プレーヤを再起動してください。**



## 2.2. SLAVE 設定

XJive Player を起動し、「2.1 MASTER 設定」と同様に「F1」キーを押し、パスワードを入力します。



1. 「TIMELOCK MODE:」のカーソルを「SLAVE」にあわせませす。SLAVE の場合、「DHCP DAEMON:」の設定はできません。
2. 「Backspace」キーを押してメイン画面へ戻ります。



**各 XJive Player には IP アドレスを設定する必要があります。あらかじめ各プレーヤの「Setting」メニューで固定 IP アドレスを設定しておくか、MASTER の XJive Player で DHCP サーバを起動し、DHCP 経由で IP アドレスを取得してください。**

## 2.3. XThink 起動

MASTER および SLAVE の設定完了後、一度、すべてのプレーヤの電源を OFF にしてください。

「XThink」を構成するプレーヤの電源を入れるときは、はじめに MASTER に設定したプレーヤから電源を入れる必要があります。次に、SLAVE の電源を入れてください。



**必ず、MASTER から電源を入れてください。SLAVE は MASTER のクロックに同期します。SLAVE の電源を先に入れないように注意してください。**

プレーヤを起動すると、自動的にプレーヤ間の同期化処理が実行されます。



**「MASTER」との同期化が完了すると「SLAVE」と表示されます**

「MASTER」との同期化が完了すると、「SLAVE」に設定したプレーヤのメイン画面左下の表示が「SLAVE」となります。



**「SLAVE」表示なるまで同期再生は実行できません。必ず、SLAVE に設定したプレーヤの表示が「SLAVE」になっていることを確認してください。**

### 3. コンテンツ再生

「XThink」で同期再生する動画ファイルはあらかじめ分割し、各 XJive Player へ配置しておく必要があります。分割した動画ファイルを同じファイル名で同じ場所へ配置してください。



**分割した動画ファイルを同じファイル名で同じ場所へ配置してください。**



「XThink」には、映像を分割/エンコードする「SplitEncoder」というコマンドラインツールが付属しています。

再生方法は XJive Player と同じです。

MASTER のファイル一覧からファイルを選択し再生を開始すると SLAVE に配置した同じ名前のファイルも自動的に同期再生されます。



**同期再生では早戻しや早送り等の動作には対応していませんので注意してください。  
動画ファイルの再生/一時停止にのみ対応しています。**